

北海道パレスチナ医療奉仕団による 「ナクバ(大災厄)の日 2021 in 北海道」

～ガザ国連UNRWA職員の吉田美紀さんと繋がって～

2021年8月21日 (Sat) 16:00～18:30

ZOOM によるオンライン講演会 (参加費：無料)

ZOOM 講演会への参加予約アドレス：hms4p.zoom@gmail.com

参加費無料・メールによる予約が必要です



1948年、イスラエルによる侵略的建国により70万人のパレスチナ人がそれまでの居住地を暴力的に追いだされ、今日に続くパレスチナ難民が作り出されました。このことをナクバと呼びます。以後、パレスチナ～イスラエル問題は、中東・イスラム世界の本質的課題となりました。

イスラエルによる「完全封鎖」が14年間続けられているガザ地区に今年の5月11日から22日にかけて「空爆」が行われ、多くの被害が出されています。また、新型コロナ禍が封鎖状態のガザ地区でも発生し、収束の見通しも立たない状況が続いています。

私達「北海道パレスチナ医療奉仕団」は、パレスチナ難民発生の原点となるナクバ(大災厄)を記憶にとどめるため2011年に「奉仕団」結成以来毎年開催してきました。今年は、ガザ地区でUNRWAの職員として活動する吉田美紀さんを現地からオンラインでご出席していただき、ガザ地区の実情をお話いただきます。皆様のご参加を心からお願いする次第です。 団長 猫塚義夫

左側写真撮影：古居みずえ

吉田美紀さん 国連パレスチナ難民救済事業機関 (UNRWA) 職員

祖父の戦争体験の話などから平和への強い関心を持ち難民支援活動に入る。2016年4月よりUNRWAガザ事務所で働く唯一の日本人。

2021年5月のイスラエルによる空爆でガザ事務所近くも爆撃を受け、同僚のパレスチナ人女性スタッフの妹と、その家族は空爆で死亡した。爆撃は既1600回以上とされ、現在も散発的に空爆が行われており、緊張が続いている。

「現地の人たちを知ると逃げだせない」と空爆下も避難せず支援活動を続けた。現在は食料、医薬品等の物資の調達に奮闘している。

今年5月20日に私達が開催した「イスラエルによるガザ空爆に抗議するONLINE集会」に急遽現地からオンラインで参加。

写真は2018年11月北海道パレスチナ医療奉仕団のガザ支援活動でガザ地区マルガニ女子中学でのバレーボール交流に吉田美紀さんが参加したときのもの。 撮影：猫塚義夫



主催：「北海道パレスチナ医療奉仕団」

札幌市東区北19条東22丁目5-13

E-mail：hokkaido.palestine@gmail.com

連絡先：団長 猫塚義夫 Tel:090-8274-3163

共催：「医療9条の会・北海道」「たかさき・渡部法律事務所」9条の会